

UTokyo RSP News

東京大学 放射線安全推進活動 ニュースレター

2020-冬号

UTokyo RSP Newsの創刊にあたって

原子力規制委員会／規制庁は旧放射線障害防止法の改正と新R I 規制法の施行準備のタイミングで、2017年頃より

●放射性同位元素及び放射線発生装置の使用者等は、大学、研究所、病院、工場等多種多様であり、各業種や組織の実態を踏まえた管理体制の構築が必要である

●放射線取扱主任者の力量に左右されることがないように業態や組織の特徴を踏まえ、放射線障害予防規程へ組織として安全管理に取り組みように計画・実施・評価・改善を実施する体制を要求する、

等のメッセージをさまざまな場面で公表していました。

東京大学では2014年頃からの全学的な検討と関係部局間での調整を経て、本学に相応しい形態での、他に前例のない「放射線安全推進体制」を2017年に構築し、関係各所からの多大な支援と協力をいただきながら実務運用をしてきたところです。約3年間の試行錯誤的な活動がようやく定常的な軌道に乗りつつあり、このたび本ニュースレター「UTokyo RSP News」の創刊に至りました。放射線安全文化の醸成に繋がる国内外の様々な動向や情報、有識者や実務管理担当者からのメッセージをこの誌面を通じて学内放射線管理者、ユーザーの皆様と定期的に共有させていただきたいと考えています。「文化」を関係者皆で育み、構築していくプロセスを共に感じ、楽しみましょう。

(2020年12月1日 記)

放射線安全推進主任者 飯本武志 (環境安全本部 教授)

UTokyo RSP -Activity Now-

東大「放射線安全推進」最前線 【安全推進活動の概要紹介】

東京大学放射線障害の防止に関する管理規程 第4条に基づき、2017年7月1日「放射線安全推進主任者」が環境安全本部長（副学長）の直屬職として設置され、3年強の期間が経過しました。放射線安全推進主任者には、主に以下の2つの役割が期待されています。

ミッション1 学内における日常的な安全文化醸成活動の中軸となる役割

ミッション2 安全管理分野の国内外における活動を本学が先導することを牽引する役割

これまでに、現場巡視や管理状況のヒアリング、IAEAや規制当局等との情報交流、学内外の組織・機関との安全管理業務や安全研究の連携協力、学協会活動や人材育成、等を展開して参りました。次号より、その具体的な活動の例と、その成果をご紹介します。

[参考URL] 学内限定 <https://www.esc.utokyo.ac.jp/kankyoanzen/pdf/kanan160.pdf>



今号の内容:

1p.創刊にあたって

1p.安全推進活動

2p.国内動向 3件

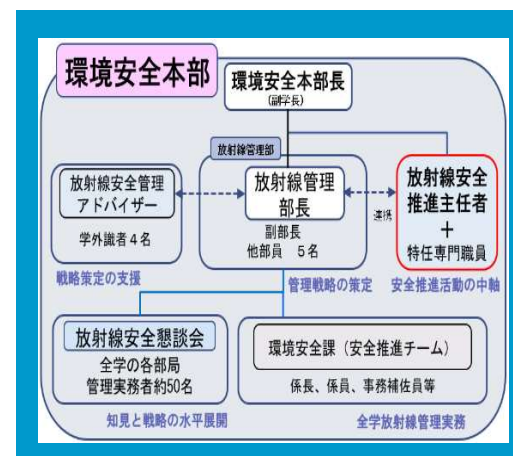
3p.国際動向 2件

3p.安全談義
「寺井前管理部長」

4p.東大施設紹介
「環境安全本部」

東京大学環境安全本部

—放射線安全推進体制—



保物学会「放射線安全文化検討会」発足 Domestic Info. 国内動向

国際動向に関する情報や問題意識を日常的に共有する...

異なる分野の専門家やステークホルダーが互いの立場や考え方を尊重しあいながら、共通の課題の解決に向けて...

一般社団法人**日本保健物理学会**に「放射線安全文化についての意識と実践に関する検討委員会」が発足、2年間の活動を開始しました。

RI 規制法(旧障防法)の本格適用を受け、放射線管理者やユーザーは現場の中で放射線安全文化を日々考え、実際に行動するステージに入り、各施設における関連の意見交換、議論がますます活発化しています。また、国際放射線防護協会(IRPA)が**高等教育・研究施設**における

放射線安全文化に関するタスグループを設置するなど、国内外の議論や活動がより具体的になってきています。このような背景で、活動の焦点を現状の調査研究にしばらく、本検討委員会が設置されています。この検討会では特に、**事故トラブルの防止と緊急時対応**を重点的なテーマとして、放射線安全文化についての**国際動向を調査**し、現場の放射線安全文化を醸成する仕組みを提言すること、を主たる活動目標としています。

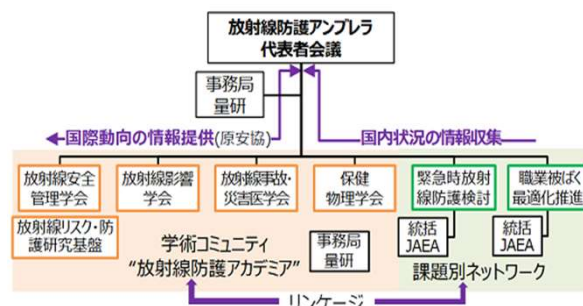
[参考URL]

<http://www.jhps.or.jp/cgi-bin/info/page.cgi?id=72>

原子力規制庁「放射線防護アンブレラ事業」 Domestic Info. 国内動向

「放射線防護研究分野における課題解決型ネットワークとアンブレラ型統合プラットフォームの形成事業」は規制委がH29から開始した放射線対策委託費の一課題として採択された事業です。この事業では**放射線規制の喫緊の課題の速やかな解決**に、放射線防護の**専門家集団が適切に関与する仕組みを構築**する活動を行っています。国際動向に関する**情報や問題意識を日常的に共有する環境**、異なる分野の専門家やステークホルダーが互いの立場や考え方を尊重しあいながら、**共通の課題の解決に向けて連携・協調をする環境**の整備や連携・協調関係の構

築をするのが、アンブレラ事業の柱となります。もちろんいわゆる放射線安全推進活動も、この中核に位置付けられています。



[参考URL] <http://www.umbrella-rp.jp/index>

J-PARCにおける放射線安全推進活動 Domestic Info. 事例研究

大強度陽子加速器施設**J-PARC**では安全文化の醸成に資する教育・啓発活動に力を入れています。104名が参加した所内職員対象の2019年5月「**安全情報交換会**」では前年度の良好な安全活動事例の紹介やサイエンストーク「加速器トンネル内に人がいる状態でビーム運転をしてしまったら」を開催、また278名が参加した「**安全文化醸成研修会**」では「強く安全な組織に必要な「人」の力」の講演等を扱い好評でした。



画像提供：J-PARCセンター

国際放射線防護協会IRPA-HERT-TGが活動を開始 International Info. 国際動向

国際放射線防護協会IRPAは、66の国と地域、62の学協会から参加している放射線防護分野の**専門家集団**。優れた実践ベンチマーク、個人や社会の**利益のための最高水準のスキルと知識を適用し、専門的能力や放射線防護文化実践の世界的な強化を推進**することを目的としています。

IRPAはTask Group on Radiation Protection Safety Culture in The Higher Education, Research and Teaching (HERT) Sectorを設置しました。その目的は、**教育研究分野の放射線安全文化を力強く醸成**することを支援／教育研究施設

の放射線管理実務者向けの**指針やツールを提供**／次世代を担う学生への安全に対する**姿勢の動機づけ**、等とされています。放射線安全文化**10の視点**（1. 経営陣の関与 2. 適切な教育訓練 3. 放射線安全の手続きや履行に関する定期的な監査や検査 4. 放射性物質と放射線発生装置の適切な管理 5. 認定専門家や役員の適切な任命や活用 6. 構成員の線量管理 7. 事故トラブルへの適切な対応 8. 効果的なコミュニケーション 9. 人材・資材・財源 10. 専門学会）を軸に各国現状調査を開始しています。

[参考URL] <http://www.jhps.or.jp/cgi-bin/info/page.cgi?id=57>

安全文化とセキュリティ文化 —IAEA文書より— International Info. 国際動向

放射性物質の使用を伴うすべての活動は、**安全性とセキュリティに細心の注意**を払う必要があります。安全は事故の防止を目的としています。セキュリティは施設に損害を与えたり、核物質の盗難につながる可能性のある意図的な行為を防止することを目的としています。… 多くの放射線事故と原子力事故の詳細な分析により、安全とセキュリティの文化のいずれか（または両方）の弱点が事故の最も重要な根本原因のひとつであることが示されています。… IAEAは、強力な安全文化を「**防護と安全の問題にその重要性に相応しい注意を向ける個人や組織、機関の特性、態度及び**

行動の集合体」と定義しました。また、IAEAは強力なセキュリティ文化を「**核セキュリティを支援および強化する手段として機能する個人や組織、機関の特性、態度及び行動の集合体**」と定義しています。…IAEAは、加盟国に施設と活動の存続期間を通じて安全とセキュリティの文化を評価、改善、強化するためのツールとトレーニングを提供しています。…これには、独立した安全文化の評価（ISCA）や安全文化の継続的改善プロセス（SCCIP）などの特定の支援サービスが含まれています。

[参考URL]

<https://www.iaea.org/topics/safety-and-security-culture>

東京大学 前放射線管理部長からのメッセージ Safety Discussion 安全談義

前 放射線管理部長 寺井隆幸
東京大学 名誉教授

私は2017年度から2019年度までの3年間、放射線管理部長を務めました。2020年3月末に東京大学を定年退職し、現在は（一般財団法人）エネルギー総合工学研究所の理事長を務めています。小生の在任中に「放射線安全推進主任者」が設置され、飯本先生が着任されました。その役割は本ニュースレターに紹介されているとおりですが、これまでに八面六臂の活躍をされ、その結果として、放射線安全に関する連携が、東京大学内の部局間のみならず、外部機関との間においても始まりつつあることは誠に素晴らしいことだと感じています。

こういった連携を通じた情報の交換や人事交流が進んでゆけば、東京大学内はもちろんのこと、日本国内の放射線安全文化の醸成に大きく貢献できると思います。東京大学の放射線ユーザーや管理者の皆様方にも是非ご協力をお願いいたします。



このページでは東京大学の放射線施設をリレー形式で紹介します。施設の特徴、最近の利用状況やトレンド、これまでの研究開発の主な成果のみならず、日々の安全管理業務に尽力されている教職員の方々をご紹介することで、放射線・放射性物質の有効利用への理解や、安全確保に関して興味をもっていただくことを目的とします。

東京大学 環境安全本部 / 環境安全衛生部

2004年4月の国立大学法人化により労安法が本学にも適用され、それに伴い本学における確実な安全衛生管理を実現するために環境安全本部を設置、環境安全担当理事の下、**学内の状況把握、必要な全学通知・啓発、所属構成員への教育、また関係官庁との対応**を行なっています。教職員、学生等の安全・衛生・健康の確保が第一優先課題になりますが、その際、以下の「**大学の特徴**」を考慮する必要があると考えています。■多種多様で移動（異動）の激しい構成員と構成員間の安全意識の差 ■教育の場～構成員の環境・安全の知識レベルに差 ■研究の場～自主性、独創性、未知の分野を探求 ■学問の自由と

管理のバランス、管理の継続性 ■研究終了時、卒業時の薬品や機材の処理が必要 ■地域における公園、大規模避難場所の役割、等。



注) 十分な感染対策の下に撮影

木村圭志 係長 本部放射線管理業務の事務統括。旧原総センター、工・原国専攻での現場管理実務を担当していた時代から全学管理における中心的な役割を担い続けている。趣味はガジェットやその他の収集と、コロナ渦以前からの海外ドラマ鑑賞など。

久木田沙斗里 特任専門職員 約4年間のバンコク生活を経て現職に復帰。本学悲願の放射線取扱者登録管理システムRadMSの開発担当。週末は息子の少年野球の応援と一眼レフでチームの写真を撮ることが日課。またシンプルな生活に憧れ、整理整頓と断捨離に励む。目指せミニマリスト！

水野利恵 技術専門職員 放射線システム運用管理に関する全学業務所掌の本部移管を機に、RIセンターより本部へ。昔からのなじみの部局の方々に協力してもらいながら、ひたすらシステムのデータ整備に励んでいる。

大槻秀武 係長 総務課より学内の安全を守りたい気持ちから環境安全業務配属を希望。少量核燃、化学物質、局所排気等の機器、カラスへの注意など幅広い業務を担当。趣味は料理だが料理上手と結婚したことから、近年は梅干しや味噌、シュトーレンといった年行事のみの様子。愛犬はポメラニアン「こまり」。

—木村係長からのメッセージ—

部局の皆様へ寄り添った本部の業務運営を目指しています。安全管理上のご不明点やご懸念など、遠慮なくご相談ください。次号は新規教育と共同利用施設運営を担当されている**アイソトープ総合センター**にバトンタッチします。

[発行] 東京大学 放射線安全推進主任者
飯本 武志
rspm.ehs.utokyo@gmail.com



環境安全本部 EHS

商標登録出願中（商願2020-124099）

—記事を募集しています—